

20 伐採前植栽試験

担当者 蟹田営林署 大平担当区主任 奈良 光 博
三戸 " 遠瀬担当区主任 吉 田 時 郎
川尻 " 川尻 " 野 場 昌 一
開発期間 昭和46年～50年
経 費

開発目的

更新期間の短縮と植付適期の拡大を主目的とし、活着率の向上と地ごしらえ、下刈の省力をはかる。

開発計画

46年度と同一に付省略

開発経過

<三戸署>

1. 植 付 46年5月19日～10月30日まで毎月0.20haづつ1.20ha
(対照区0.30haは47年度植付)
2. 施 肥 46年6月24日～10月30日
3. 上木伐採 47年1月～3月(集材機による全幹集材)

<川尻署>

1. 地ごしらえ 46年5月31日～10月7日(毎日実施)
2. 植 付 " " (毎月0.2ha)
3. 施 肥 46年6月29日～10月7日(10月は植付同時、他は1ヶ月後)
4. 上木伐採 47年1月～2月 (集材機による全木集材)
5. 成績調査 47年10月

<蟹田署>

1. 伐採前地ごしらえ 46年5月1日 (電動刈払機)
2. 植 付 46年5月～10月(毎月実行)
3. 施 肥 46年8月～9月
4. 上木伐採 46年12月～47年3月

開発経過

<三戸署>

成績調査結果

(46年度調査)

植栽月	当初樹高	秋期樹高	伸長量	活着率
5	33.6 cm	40.3 cm	6.7 cm	93%
6	33.2	40.2	7.0	84
7	40.7	46.6	5.9	91
8	41.7	48.1	6.4	73
9	38.5	44.5	6.0	70
10	43.0	50.1	7.1	100

ただし、樹下植栽で上のおり活着、成長をみたが、47年1月～3月上木伐採搬出において70%が枝条の下敷となり枯死した。

したがって、本試験は打切る予定である。

<川尻署>

成績調査結果

単位cm<>は伸長量

林小班		45			46			47春			47秋		
		平均根元径	平均地上高	備考	平均根元径	平均地上高	備考	平均根元径	平均地上高	備考	平均根元径	平均地上高	備考
25い	5月植栽区	0.600	27.8	植付時	0.900	29.3	41.120調査	0.940	30.5	47.6.7調査	0.953	36.4	47.12.12調査
	6月	0.550	26.4	"	0.810	30.4	<1.50>	0.825	31.4	<1.20>	0.883	50.2	<5.90>
	7月	0.900	46.4	"	0.990	54.8	<1.00>	1.038	55.7	<1.00>	1.377	72.4	<18.80>
	8月	0.980	47.8	"	1.000	54.8	<3.00>	1.062	56.4	<0.90>	1.452	70.7	<6.70>
	9月	0.750	31.0	"	0.750	37.0	<7.00>	0.788	38.4	<1.60>	1.114	65.8	<4.30>
	10月	0.750	31.4	"	0.800	33.4	<6.00>	0.805	35.2	<2.40>	0.918	51.9	<27.40>
	対照区						<2.00>	0.662	39.1	47年春植	0.878	49.4	<6.70>
25い伐区	5月植栽区	0.770	31.2	植付時	0.900	32.2	46.11.20調査	0.917	35.6	47.5.25調査	1.099	58.3	47.12.12調査
	6月	0.730	28.7	"	0.800	31.7	<1.00>	0.816	35.1	<3.40>	1.194	65.2	<22.70>
	7月	0.920	53.0	"	0.980	59.0	<3.00>	0.995	62.7	<3.40>	1.318	70.9	<30.10>
	8月	0.880	44.6	"	0.900	49.6	<6.00>	0.910	55.3	<3.70>	1.351	71.1	<8.20>
	9月	0.760	31.0	"	0.770	36.0	<5.00>	0.785	39.9	<5.70>	1.364	72.9	<5.80>
	10月	0.770	31.8	"	0.770	32.8	<5.00>	0.779	35.2	<3.90>	0.906	49.6	<33.00>
	"						<1.00>			<2.40>			<4.40>

蟹田署

1. 立木本数	ha 当り	ヒバ	446本	188 m^3
		広	123本	62 m^3
		計	569本	250 m^3

2. 成績調查結果

植栽月	区 分	当初樹高	秋 期 樹 高		伸 長 量	枯損率%	被 害 率 %	
			46. 12. 16	47. 9. 11			ノ ウ サ ギ	上木被害
5	樹 下	21.7 ^{cm}	26.3 ^{cm}	35.9 ^{cm}	14.2 ^{cm}	7	5	5
	対 照 区	26.6	38.3	68.8	42.2	0	3	
6	樹 下	22.7	28.1	39.5	16.8	5	2	4
	対 照 区	19.4	29.6	57.8	38.4	7	2	
7	樹 下	24.3	26.9	40.1	15.8	2	8	3
	対 照 区	21.9	23.3	54.7	32.8	2	17	
8	樹 下	24.4	25.8	40.1	15.7	0	2	33
	対 照 区	23.3	23.9	44.8	21.5	0	2	
9	樹 下	31.9	32.6	54.0	22.1	0	2	36
	対 照 区	26.4	27.0	51.8	25.4	0	0	
10	樹 下	27.1	27.9	42.5	15.4	0	2	46
	対 照 区	23.9	24.5	35.2	11.3	0	0	

注) 上木被害が8.9.10月区に多く集中しているが、これはダンハム集材をしたため、集積地点が
 扇のかなめ状になることから集積地点に近いほど被害が多くなった。

3. 功程 (ha 当り) 樹下	伐採前地ごしらえ 1 1.7 人	植付 1 4.5 人	下刈しない (46 年)
			下刈しない (47 年)
対照区	植付 1 7.4 人		下刈しない (46 年)
			4.0 人 (47 年)

評 価

植栽木、天然稚幼樹の損傷防止のため、集材方式を検討する必要がある。

なお、測定値の誤差を防止するため、測定木の根元に測定位置（地面高に小杭を打っておく）を固定することがのぞましい。